

試験経過記録(その2)

日向 営林署

(2) クヌギ切断処理生長量調査

クヌギ樹高生長促進を目的に、地上5cm, 10cm, 20cmの3通りの切断を昭和59年度に実行し、ぼう芽状況を調査した結果は表-2のとおりである。

表-2 クヌギ切断処理生長量表

切断箇所	ぼう芽本数	功 程	生 長 量					備 考
			59年度	60年度	61年度	総生長量	年平均生長量	
地上5cm	22本	9.8人	90cm	29cm	37cm	156cm	52cm	切断本数は5cm区 10cm区, 20cm区共に 20本を実行した。
10cm	20	8.4	94	25	46	165	55	
20cm	27	7.0	104	25	31	160	59	

(3) 被害木調査

ア、各被害原因毎の調査結果は表-3のとおりである。

表-3. 被害調査表(昭和57~62)

樹 種	調査本数	寒風害	虫 害	兎の害	鼠の害	乾燥害	切 損	鹿の害	猪の害	計	枯損率
ヒキ(1条)	48			(7)		(1)				(8)	0
〃 (2条)	46	(2)	1	(4)		1				(8)	4
クヌギ(1条)	48		(2)	(2)			(2)		1	(6)	8
〃 (2条)	46	(7)	(1)	(1)			(4)			(13)	13

但し、()は被害を受けたが、再生可能又は再生したもの。61年度枯死と判断したものより再生したものが2本あった。

イ、表-3の被害木のなかから再生できるものを昭和63年2月調査した樹高生長は表-4のとおりで再生木は健全木に比しヒキ87%、クヌギ67%の樹高生長を示している。

試験経過記録(その3)

日向 営林署

表-4. 健全木と再生木の樹高比較表.

樹種	健全木			再生木		健全木+再生木	
	調査 本数	本数	樹高	本数	樹高	本数	樹高
ヒノキ	94本	78本	279 ^{cm}	14本	242 ^{cm}	92本	270 ^{cm}
クスギ	94	62	179	19	120	81	167

4. 更新及び保育の工期.

地拵から下刈終了までの作業種別工期は表-5のとおりである。

表-5.

作業種 方法、工期	57		58		59		60		61		62	
	作業方法	工期	作業方法	工期	作業方法	工期	作業方法	工期	作業方法	工期	作業方法	工期
地拵	散布	13.6 ^{4/10}										
植付	普通植	21.2										
下刈	全刈	4.7	筋刈	6.6 ^人	筋刈	5.9 ^人	筋刈	5.6 ^人	筋刈	6.0 ^人	筋刈	6.1 ^人

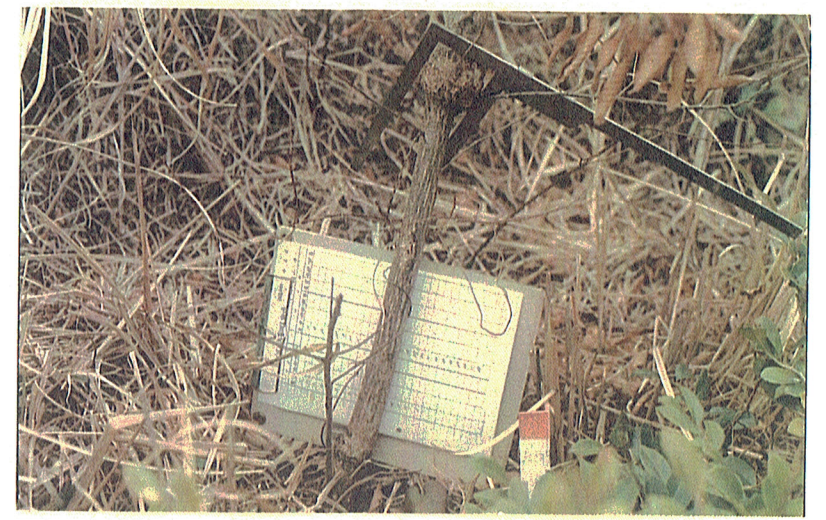
- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区分 指示

白 向 営林署

(様式 6)



尾鈴国有林クヌギ林小班的ヒノキ6年生苗(左上)とクヌギ6年生苗(左下),及びコウモリガの幼虫の被害を受けたクヌギ苗(上)。

状 況 写 真

区 分 指 示

日 向 營 林 署

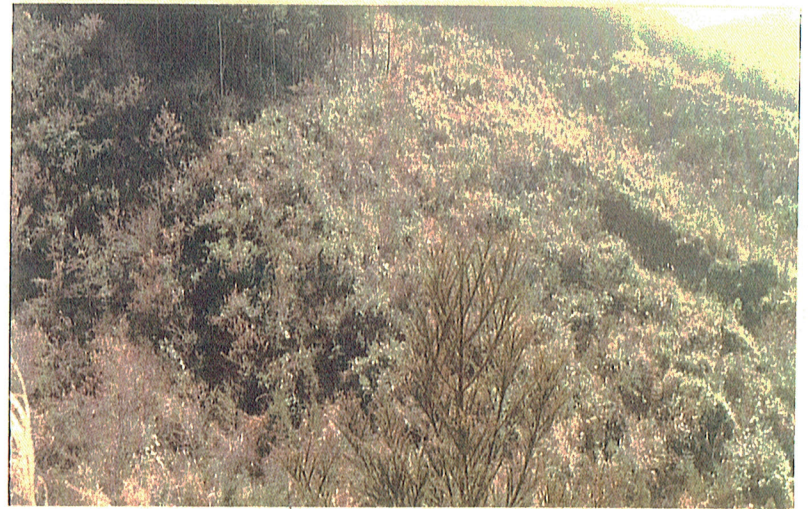
(様 式 6)



尾鈴国有林15㍍、林小班のクヌギぼう芽苗
(62年9月に芽かき実行)4年生の生育状況。
〔山崎、2.22撮影〕



同左。



同左。

状 況 写 真

区 分 指 示

日 向 營 林 署

(様式6)



尾鈴国有林15㍍、
林小班のスギ人工林
内にクヌギのぼう芽
苗を保存し、(混植
試験地の対象地。)
施業を行っている林
分。(5.6.22撮影)



尾鈴国有林15㍍、林小班内、
スギ人工林4年生と同時に生育を
続けているクヌギぼう芽(左)と手入
後のクヌギ(上)4年生苗。

昭和63年度技術開発実施報告書

様式 2

課 題	クヌギ混交林施業法	継続・新規別	継 続	担 当 課	計 画 課	開 発 箇 所	日 向	期 間	昭和56年度 ～ 70年度	
		経常・特別別	経 常							
		指示・自主別	指 示							
全 体 計 画		実 施 報 告			昭和63年度実施計画		評価および普及計画			
		昭和62年度までの実施経過を記入のこと		昭和63年度実施結果を記入のこと						
1. 混植方法 (1) 二条植栽 (2) 郡条植栽 (3) その他の植栽方法 2. 保育方法 3. クヌギ収穫とヒノキの間伐の合理的伐出法の検討 4. 調査事項 (1) 成長量調査 (2) 収益性の調査		1. 試験地設定 (1) 場所 尾鈴国有林17そ林小班 (2) 面積 2.05HA (3) 植栽 昭和57年4月 (4) 植栽方法 A区 ヒノキ1条, クヌギ1条 B区 ヒノキ2条, クヌギ2条 (5) 調査事項 ア. 植付時樹高調査 2. 調査事項 (1) 成長量調査 (2) 被害調査(野兎等) (3) クヌギ切断試験		1. 調査事項 (1) 成長量調査 (2) 植生調査 2. 保育方法 (1) 下刈実行 請負(人機併用, 筋刈)		1. 調査事項 (1) 成長量調査 (2) 植生調査 2. 保育方法 (1) 下刈実行				

試験経過記録（その1）

（様式 4）

日向営林署

課 題	クヌギ混交林施業法
-----	-----------

1. スギ、ヒノキとクヌギの混植、または、クヌギのぼう芽更新を行い、椎茸原木生産と間伐等を組み合わせ合理的な椎茸生産技術と森林施業を確立する目的で、昭和56年度に2箇所の試験地を設定し、調査を実施してきたが、試験地の一つである三方界国有林138に林小班は、野鼠の害によりクヌギが全滅状態となったので、この試験地については昭和61年度で調査を打ち切り、尾鈴国有林17そ林小班についてのみ継続調査を実施しているので、その経過について報告する。

2. 試験地

- (1) 場所 尾鈴国有林17そ林小班
- (2) 面積 2.25HA
- (3) 植付 昭和57年3月
- (4) 植付方法
 - ア. ヒノキ1条, クヌギ1条植(3プロット)
 - イ. ヒノキ2条, クヌギ2条植(3プロット)

3. 成長量調査等

(1) 成長量調査は表-1のとおりで、平成元年1月の調査では46cm、クヌギ13cmの成長を示しており、植栽時に対してヒノキ約9倍、クヌギ約5倍の成長量を示している。

表-1

樹種	区分	単位	s56植栽時	s57	s58	s59	s60	s61	s62	s63	成長量
ヒノキ	本数	本	94	79	79	78	78	78	78	92	
	樹高	cm	37	66	102	144	190	239	279	325	288
	年平均成長量	cm		29	36	42	46	49	40	55 46	41
クヌギ	本数	本	92	85	69	68	67	65	62	81	
	樹高	cm	38	57	73	97	123	149	179	192	154
	年平均成長量	cm		19	16	24	26	26	30	25 13	22

（注）63年度調査は再生木の調査数値を含む。